

写真クラブ フラッツ・フォトキナ

写真クラブ、フラッツ・フォトキナは2009年(平成21年)12月に現会長の鈴木榮三さんの主唱によりカメラの知識を深め写真撮影の技術向上を目指し、会員相互の親睦・友好を図ることを目的として設立されました。

現在8名の会員で定期的に勉強会を開催し、折々に撮影会も催行しています。また、各地で開催される写真展にも足を運び写真鑑賞の機会を作っています。写真を共通の趣味とする会員の親睦を図るために夏には暑気払い冬には忘年会や新年会も開催しています。2017年6月末で延べ121回の勉強会・撮影会を開催しました。その活動の一部はこの会報にも重ねて紹介させて頂きました。勉強会で得た知識を実際に活かす為に撮影会を開催していますが、その成果は各種展示会に出展・応募しています。昨年は八千代市民文化祭の市民ギャラリー展に出展

しましたので、ご覧頂いた方もいらっしゃるでしょう。

実は写真は文化であり、芸術であり、スポーツでもあると言えるでしょう。現在はデジタル化の進展が著しく、スマホに席卷されそうな状況ですが、19世紀半ばに始まるカメラの歴史は記録媒体がフィルムの時代が長く続いてきました。1981年にソニーが磁気媒体を記憶装置として撮影するカメラ「マビカ」を発表して以来、パソコンを使用したレタッチ技術の発展と相俟って長足の進歩・発展を遂げているデジタルカメラがメジャーな時代ですが、一方には依然フィルムカメラへの愛着を持ち続けている年配層もあります。原則、毎月第2土曜日が勉強会、奇数月の第4土曜日が撮影会。今年は日ごろ蓄えた蘊蓄を形に表すためにより一層アウトドアの活動に力を入れて行きたいと思っています。



定例の勉強会の後で。会員の面々

後列：山本、安原、長洲、八田。前列：大石、鈴木、福永。円内：西川